

平成21年度 諏訪清陵高等学校評価表～教育目標・取組み・評価～(年度末評価)

※評価(達成度) 1:不十分 ～ 5:十分達成された

教育目標	取組み	評価の観点	達成度	○成果 ◆課題 ■改善策・向上策	(参考数値)
生徒の学力向上 (重点目標)	①生徒の家庭学習時間の増加 ②教員の指導力向上と授業改善 ③教科における課題の明確化と解決に向けた計画的な取組み ④SSH、生徒による授業評価、自反会(土曜講座)、授業シラバスの活用	①生徒の学力が向上したか	1・2・③・4・5	○10月の模試は7月よりも偏差値平均が上がった。生活実態調査(年10回実施)の効果があつたのではないかと、(1学年)◆全体的な学力の低下、2極化の進行(低位生の増加)。(2学年)◆2年次での下位層の底上げが十分とは言えなかった。(3学年)■学力差への対応として、低位生指導と中位層の上位への引き上げ。学習時間の確保による苦手科目の克服。(2学年)	・生徒学習状況調査 ・試験成績(模試、センター試験) ・生徒による授業評価 ・生徒自反会満足度調査
		②生徒の満足する授業、知的探 究心を喚起する授業ができたか	1・2・3・④・5	○駿台セミナーへの参加(延べ30名参加)(昨年度16名)により、受験指導法が確認でき、指導力の向上を図ることができた。○予備校主催の各種進路指導研究会に参加。最先端の進路指導の状況を知ることができ、有意義であった。	
		③家庭学習時間の増加が図られたか	1・2・3・④・5	○各学年で行った生活実態調査は家庭学習への意識を持たせる上で一定の効果はあると思われる。◆家庭学習時間の不足。■生活実態調査に基づいた生徒への指導。■自反会(自習室)の有効利用による放課後の自主的な学習への援助。	
		④生徒による授業評価に基づく授業改善がなされたか	1・2・③・4・5	○特に自由記述部分は、授業者の気づかない点についての指摘もあり、授業改善に役立った。	
		⑤各教科の課題が解決されたか	1・2・③・4・5	○授業担当者間の話し合いを行い、課題克服のための工夫をしている。■教科として課題を共有し、それを検討して、次年度に引き継いでいきたい。	
		⑥自反会の目的が達成されたか	1・2・3・④・5	○1学年土曜講座年間15回(内授業11回)実施。2学年土曜講座年間15回(内授業9回)実施。	
		⑦シラバスの整備と活用が図られたか	1・2・③・4・5	○全ての教科・科目でシラバスを整備した。◆単なる計画表でないシラバスの作成。◆シラバスの利用方法の検討。	
SSHに向けた学校全体の取組み	①理数を中心に、高度な科学的思考力を育み学力を高めるための指導方法等の開発 ②理数に重点を置いた教育課程の導入(2, 3年) ③大学、企業との連携 ④「清陵サイエンスフォーラム21」の開催 ⑤科学系クラブ活動の振興 ⑥国際性を育む	①理数英を中心に各教科で指導内容・方法の研究開発に取組み、校内で組織的に研究が推進されたか	1・2・3・④・5	○5年間の取り組みを総括し、第三期のSSHの計画を立案した。○課題探求のテーマなど改善を行った。◆第三期SSHの各組織の協力体制。■校内の組織間の連絡・調整をきめ細かくしたい。	・SSH意識調査 ・各事業終了後の生徒充実度調査
		②生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲が向上する取組みであったか	1・2・3・④・5	○2, 3年SSH課程生徒の興味・関心は非常に高い。また、サイエンスフォーラムは一般生徒の興味・関心を喚起できた。○科学作品展や科学コンテストで優秀賞等の受賞が3件あった。◆学力の向上につながっていないとの評価が多い。	
		③生徒の満足度を高める取組みであったか	1・2・3・④・5	○2, 3年SSH課程生徒の満足度は非常に高かった。	
		④連携を効果的に果たしたか	1・2・3・④・5	○必要な連携を効果的な時期に実施することができた。○講義内容や講師の選定を生徒が行った。◆第三期SSHの新たな連携先を探す。	
主体的な進路選択と進路実現の支援	①合同HR、講演会、自反会交流会(先輩外部講師)等による進路意識の向上と進路研究への支援 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有化 ④指導の継続及び改善のための進路係と各学年間の連携	①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組みができたか	1・2・3・④・5	○希望者による学習合宿を12月に行った。参加者には良い刺激になったようだ。(2学年)◆入学時の気持ちをいかに継続させることができるか。(1学年)○難関大学入試研究会・信州大学入試研究会(信州予備校)は好評だった。(3学年)○職場体験学習実施。のべ18名参加。	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数 ・生徒満足度調査
		②生徒の自己目標実現のための指導に十分取組めたか	1・2・3・④・5	○大学見学会実施。のべ104名参加(昨年度82名)。(参考になった95%、参考にならなかった5%)◆東大「高校生のための金曜特別講座」(21回実施、生徒のべ30人参加)の運営方法の再検討。○小論文模試の実施。(5回)(1学年)	
		③実力テストや校外模試が有効に活用されたか	1・2・3・④・5	◆模試の結果を使った個別指導はまだ不十分。◆模試の時期、業者の選定。(クラブの大会の時期をできるだけ避ける。)(他校の動向)○一部教科ではあるが、模試等の問題の内容について解説を行った。	
		④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか	1・2・3・④・5	○学年通信による進路情報の提供と学習、進路指導。○合同HR、PTA総会、地区PTA、各種保護者会における進路情報の提供。○学年会による進路情報の確認と共有。○進路検討会の実施。(3学年10月実施。2学年1月実施。)○模試の結果の職員会への報告。	
		⑤進路係、各学年間の連携が十分に図られたか	1・2・3・④・5	○丁寧な進路指導が行えた。(3学年)○受験報告書(面接・小論文・実技試験)の蓄積と情報共有。○新旧3学年担任連絡会を持つ。◆教科と学年の情報の共有。	
学友会の自主的活動支援とクラブ活動の活性化	①顧問の適切な指導 ②活動の保障	①学友会活動を自主的に推進するための指導ができたか	1・2・3・④・5	○部室美化等一定の成果をあげた。◆一部ではなく全体への学友活動になるよう更に指導を重ねる。	・クラブ加入者数 ・生徒満足度調査
		②クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか	1・2・3・④・5	◆■放課後部活動の終了時間及び、7:00帰宅の指導を徹底することを顧問会で確認した。	
自主・自立性に基づく”清陵生としての自覚”を高める指導	①学友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導 ②学校生活におけるモラルの向上	①学校生活の様々な場面において適切な指導ができたか	1・2・③・4・5	○特別支援教育の校内支援体制の明確化。◆専用の生徒相談室の確保。○春、秋の交通安全運動期間中に職員による交通指導を実施。来年度も引き続き実施。○係による定期的な駐輪場指導。○校内清掃は以前より良くなってきている。	
		②学友会へ効果的な指導助言ができたか	1・2・3・④・5	○文化祭における生徒の帰宅指導、警備係等との関わりでは、概ね適切な指導助言ができた。○駐輪場指導が、生徒の参加により効果的になった。◆学友会指導、生徒指導の係職員間の連携。	
		③生徒の自主・自立性を尊重した指導ができたか	1・2・3・④・5	○自主・自立の精神に基づいた、生徒のよい行動が見られた。◆登下校時の交通マナー・ルール、貴重品・自転車の管理等については、定期的指導の必要がある。	
前期選抜の改善と広報活動の充実	①前年度の反省をふまえた前期選抜の改善 ②HPの充実と校内運営体制の整備、広報誌「清水ヶ丘便り」の充実、学校案内ビデオ・パンフレット作成、中学校訪問 ③授業公開日の適切な設定	①わかりやすい選抜基準であったか	1・2・③・4・5	○出題数、内容等の改善を行い、これまでよりは受験者の力を判断しやすいものとなった。	・HP更新回数 ・広報誌発行回数 ・授業公開来校者数
		②本校、受検生双方に有益な選抜となったか	1・2・③・4・5	◆○今までの前期選抜合格者の多くは入学後も学習面だけでなくクラブ活動や学友会(生徒会)活動の面でも充実した高校生活を送ってきたが、前期選抜に於ける不合格者の多さ、前期選抜の不合格者のほとんどが後期選抜で再び同一高校を受験すること、前期選抜の可否判定基準の曖昧さ等の問題点が指摘され、来年度から本校においては前期選抜を行わないこととなった。	
		③HP、「清水ヶ丘便り」等は充実していたか	1・2・3・④・5	○予定通り年間3回(8月、12月、3月)発行。係、各学年、クラブ、生徒の協力により充実した紙面にすることができた。○本年度も多めの発行部数を確保できた。◆新しい企画の検討。○HP年間36回更新(3/19現在)。	
		④本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか	1・2・3・④・5	○清水ヶ丘便り、学校案内を、体験入学、授業公開日等様々な機会を通じて配布できた。◆今の本校の生徒や取り組みについて、できるだけ具体的に伝えていきたい。	